

# 金城大学短期大学部

平成18年度第三者評価  
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

## 金城大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 金城学園
理事長	加藤 晃
学 長	本田 昂
A L O	東田 修一
開設年月日	昭和51年4月1日
所在地	石川県白山市笠間町1200

### 設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
幼児教育学科		150
美術学科		65
ビジネス実務学科		135
	合計	350

### 専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
福祉専攻	40
	合計 40

### 通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

金城大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成17年7月7日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

「全人的教育」をかかげ、日常の具体的な事柄を通して、教育目的、教育目標を、毎朝の教職員のミーティングや学生と教員とのクラスミーティングにおいて伝達している。教育の理念が、抽象的、統括的なものであるため、あらゆる教育活動の中にかき入れられるものと思われる。

幼児教育学科においては、「社会の要請に応え得る保育士・福祉実践者の育成」を、美術学科は「芸術文化創造の一翼を担い得る基礎能力の育成」を、ビジネス実務学科では、「現代のビジネス社会に対応できる人材の育成」を目指し、それぞれの学生のニーズに応え、少人数クラスによるきめ細かな指導がなされている。特に、ビジネス学科においては、5つのコースを設け、地域の産業や社会の要請を取込む教育課程の作成を行い、キャリア教育への積極的な取り組みがみられる。専攻科福祉専攻の介護職の養成や、留学生別科の設置も、地域および学生のニーズに対応した教育の実施体制と認められる。

クラス担任制による毎日の教員と学生のミーティング、学生の座席指定制、少人数教科の開講など、きめ細かな指導体制がとられ、教育の実施体制には熱意がうかがわれる。教育環境は、併設大学との関係も検討されつつあり、今後有効的活用が期待される。

追試験・再試験の実施により、単位不認定となる学生は少ないが、過去3年間の退学理由を、学生の学力および入学前からの問題の延長ととらえ、各学科ともクラス担任を核とし、保護者との連絡を密にしながら、「実務型の人間の短期育成」を達成するために、資格取得の啓発に努め、指導の徹底を図る努力がみられる。資格取得については、検定数、受験者数、合格者数とも、年々上昇し、指導の成果がみられる。

併設の四年制大学との協力体制で、学生生活全般について、快適に過ごせるよう取り組みがなされている。憩いの空間が設計の段階から配慮され、保健室、食堂、売店、駐車場な

ど、学生の必要に応じて施設が整備されている。

学内紀要が毎年発刊され、美術学科では、各種展覧会への出品や個展など、専門分野における研究活動が展開されている。また、若手教員の研修や研究機会の確保についても支援がなされている。ビジネス実務学科においては、7名の若手教員を中心に、キャリア教育支援事業、地域に対するキャリア教育を2本柱として研究実践を進めている。

平成16年度特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）が採択され、「エデュケーション・キャリアカウンセラー養成講座」を開講するなど、専門分野をいかした社会的活動を展開している。

## 2. 優れていると判断される事項など

### (1) 優れていると判断される事項

評価領域 教育の内容

ビジネス実務学科の『キャンパス内におけるキャリア教育～意識変容への挑戦～』など特色ある短期大学教育が展開されている。

### (2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育の内容

学生の授業評価の結果を分析、活用して改善につなげる一層の努力を期待する。  
一般教育の選択の幅を広げ、教養教育充実への努力が望まれる。

評価領域 研究

専任教員の教育と研究双方の充実のために、研究日の確保が望まれる。

評価領域 管理運営

教員と職員の職務内容の整理、役割分担を明確化し、規程に沿った事務処理に努められたい。

### (3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

## 領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

### 評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

短期大学全体として一定の点検がなされている。

毎朝の教職員のミーティングや教員と学生とのクラスミーティングを行い、日常的な伝達を通して教育目的・教育目標の共通理解に積極的に取組まれている。

### 評価領域 教育の内容

教育課程が体系的に編成されている。

多くの資格取得に挑戦可能なことや少人数クラスの指導など、ニーズに応えるものとなっている。

幼児教育学科においては、保育者など、福祉実践力を、美術学科は芸術文化創造の一翼を担い得る基礎能力の育成を、ビジネス実務学科では、現代のビジネス社会に対応できる人材の育成を目指し、それぞれの学生のニーズに応え、少人数クラスによるきめ細かな指導がなされている。特に、ビジネス学科においては、5つのコースを設け、地域の産業や社会の要請を取込む教育課程の作成を行い、キャリア教育への積極的な取り組みがみられる。専攻科福祉専攻の介護職の養成や、留学生別科の設置も、地域および学生のニーズに対応した教育の実施体制と認められる。

### 評価領域 教育の実施体制

演習室、実技、実習室など併設大学と同一キャンパスにあり、共用部分の活用もスムーズ

ズに行われている。

図書館は、学生が活用しやすいように配慮されている。

クラス担任制による毎日の教員と学生のミーティング、学生の座席指定制、少人数教科の開講など、きめ細かな指導体制がとられ、教育の実施体制には熱意がうかがわれるが、教育課程の1科目を、クラス毎週4回、時間を変えて開講し、担当教員が同じ内容を4回行うなど、専任教員の加重負担が懸念される。

#### 評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

学生の卒業作品が、学内に多数展示されているなど、短期大学の特色と教育の成果がうかがえる。

卒業後評価については、専門職就職者数をもとに検討し、就職先からの問題点の指摘を検討するなど、取組みの努力がみられる。

各学科ともクラス担任を核とし、保護者との連絡を密にしながら、「実務型の人間の短期育成」を達成するために、資格取得の啓発に努め、指導の徹底を図る努力がみられる。資格取得については、検定数、受験者数、合格者数とも、年々上昇し、指導の成果がみられる。

#### 評価領域 学生支援

入学に関する支援については「手づくりの温かさを持った教育」を基本理念とし、積極的に行われている。

学生生活支援体制として、クラス担任制において毎朝ミーティングを実施するなど、きめ細やかな支援体制がとられている。

留学生に対する日本語教育の体制が整っている。

#### 評価領域 研究

教育活動に重きを置いている中でも、教員の研究活動が全体的には展開されている。

美術学科では、各種展覧会への出品や個展など、専門分野における研究活動が展開されている。また、若手教員の研修や研究機会の確保についても支援がなされている。ビジネス実務学科においては、キャリア教育支援事業、地域に対するキャリア教育を2本柱として研究実践を進めている。

#### 評価領域 社会的活動

社会的活動においては、地域の関係機関、団体とともに研究し、問題提起や情報発信を重要な課題として位置づけている。地域とともに生きる短期大学として教育資源を地域に開放し、提供する努力が認められる。

学生のボランティア活動の具体的活動実態を訪問調査において確認し、学生の社会的活動を奨励、支援している。

アメリカ3大学、台湾2大学、中国3大学との学術交流協定を結んでいる。また、教育の実効性を目指し、留学生別科を設置するなど、国際交流への積極的な努力がみられる。平成16年度特色GP採択事業として、カウンセラー技術を磨くための「エデュケーショナル・キャリアカウンセラー養成講座」(受講者42名)を開講している。美術学科が開学当初より毎年卒業制作展を石川県立美術館で開催し、社会に成果を問うことも行っている。また、地方紙『北國新聞』の「学術の森」欄に多くの教員がシリーズで執筆するなど、地域の短期大学が持つ専門分野をいかした社会的活動を展開している。

#### 評価領域 管理運営

理事長のリーダーシップが強力に発揮されている。法人組織の管理運営はおおむね適切である。

事務組織は大学との共通部門が多く、部長・課長職はほとんど兼務であるが、組織としては整っている。教務、学生、入試広報、就職指導の部長には教員が就き、各部に4名の教員が配置され、運営されている。したがって、事務局職員の業務は軽減されている。人事管理においては規程の整備とその運用が鍵となるが、おおむね適切である。

重要事項の発案は、理事長、教員の双方からなされ、学科会議で検討されて、理事長が決定している。理事長の指導力により、短期大学の独自性も維持が可能になっている。

#### 評価領域 財務

短期大学に必要な施設の整備と管理は適切に行われている。省エネおよび地球環境保全対策に対する取組みとして、ビジネス実務学科が平成17年11月「チーム・マイナス6% (民間団体の環境保全推進事業)」参加の承認を受け、環境意識の向上を図っている。

財務運営はおおむね適切であるが、検討されることが望まれる。

#### 評価領域 改革・改善

副理事長をはじめ、全部科長がそれぞれの主管部を担当し、あらゆる部門を全体で討議

する形をとるなど、改革・改善に対する一定の努力がみられる。

「第三者評価を絶好のチャンスと受けとめ、目標設定、実施結果、考察を続けたい」とし、今、大学が動き始めたと言っている。その記述のとおり、全学的に前向きに取り組む姿勢が感じられる。

自己点検・自己評価の実施と報告書の作成に当たっては、学長をまじえた全学的なとりまとめがなされることを望みたい。